

の殆んどが9千→1万台、フレグモ-ネ型の殆んどが9千→1万2千台、壊死型の殆んどが1万→1万4千台、蓄膿型では9千→1万4千台、穿孔型では1万2千→1万4千、合慢性型では7千→8千台と統計せられた。

最後に、腹部疾患その他に就いても少しく触れる。

28, 僧帽弁々膜症に於ける Esophagogram に就いて (第二報)

(三神内科)三神美和, 小山千代, (演)大久保つる

僧帽弁疾患の心臓手術の適応上, 其の左房に於ける逆流の有無及び程度を知る事は極めて重要と思はれる。

私共は其の特殊診断法の一つである Esophagogram に依り左房圧を推定し, 逆流の有無及び程度を観察して来た。正常心に就いては, 既に学会(昭和29年10月総会)に於て報告した。其の後症例を重ね, 健者, 僧帽弁狭窄症, 同閉鎖不全症, 狭窄兼閉鎖不全症の間には, 互に鑑別し得べき夫々特有の波形を示す事を認め, 更に手術所見との対比を行い, 逆流の適中率88%である事を日本循環器学会(昭和30年7月第19回総会)に於て述べた。其の波形は, 健者では, 心臓収縮の週期に一致して夫々なだらかな波形を示し, 逆流のあるものでは, 其の曲線は概ね二峰性を示し, 時に第二陽性波は二つに分れる。又心室収縮期の比較的早期から極めて高い陽性波 Plateau を示し, 其の下降脚は急峻である。狭窄のみのものでは, 曲線は同様に二峰性を示すが心室収縮期中期から後期にかけて陽性波を示し, 之は時に拡張期に迄及び且其の下降脚は極めてなだらかである。

尙 Esophagogram と手術中の直接左房穿刺に依る圧曲線とを比較して見たが, 其の波形は概ね一致し而も Esophagogram に於ては其の振幅は増大し, 顕著である事から, 本法は僧帽弁疾患に於ける術前の臨床診断法として, 重要且価値のあるものである事を確認した。今後更に本法とカイモグラフとの対比を行い, 其の確実性の検討をしてみたいと思う。

29, 70余例の血管心臓造影実施より見たる知見

(放射線科)島津フミヨ, (演)後藤千代

演者らは昭和26年から血管心臓造影法を試み, 現在までに70余例を経験した前期間は急速取替交換方式を用いたが最近3カ年は Rollfilm を用い, 共に直接撮影法である。以上の経験から, 本法実施に際しては種々な点で特殊の考慮を要するが之は装置に就ての問題点と, 被写体に対する点とに大別する事が出来る。今回は特に適応症, 撮影時体位, 曝射時間, 影像の解明等に就て述べたいと思う。

30, アルキルトリメチルアンモニウム塩の合成

(第3報)

(薬局)森川利秋, 塩沢さだ子

(演)四元とし, 川口正子

余等はさきにフェニルアルキル及び α -ピリジナルキル系列の側鎖アルキルの炭素数1~5個の標記化合物を合成し, 其等系列における側鎖アルキルの炭素数の変化に伴うコリン作用の推移を観察し其の結果について本学会で報告した。

その後ジフェニルアルキルトリメチルアンモニウム塩の一系列の合成を続行し, 次の数種の化合物並びにそのアンモニウムヨジッドを合成中である。ここでは現在までに得られた合成結果について報告する。之等化合物の薬理作用については, 三沢敬義氏の許で検討中である。

ジフェニルメチルジメチルアミン。

ジフェニルエチルジメチルアミン。

1, 3-ジフェニル-n-プロピル-1-ジメチルアミン。

1, 3-ジフェニル-n-プロピル-2-ジメチルアミン。

1, 4-ジフェニル-n-ブチル-1-ジメチルアミン。

1, 4-ジフェニル-n-ブチル-2-ジメチルアミン。

1, 5-ジフェニル-n-アミル-1-ジメチルアミン。

1, 5-ジフェニル-n-アミル-2-ジメチルアミン。

1, 5-ジフェニル-n-アミル-3-ジメチルアミン。

本研究は東大落合教授の指導によるものである。

31, 多数混在せる戦災白骨死体の鑑定例

(東監医) 平瀬文子 (法医) 清水宏子

(慶大法医) 堀口 文

戦災地区整理中焼跡の土中等から屢々白骨化した死体を発見することがあるが, 戦後丁度10年目に当る昭和30年3月, 東京都江東区内の某寺境内並びに附近の防空壕跡と思はれる処等3箇所から殆んど完全に白骨化し一部腐朽せる白骨死体を発見したのでこれを13体に分類した後, これらの性別, 年令及び身長等を推定し, 個人識別上大いに参考となり得る成績を得たのでここに報告する。

尙発掘場所が総て戦災地区であり, 且つ義歯や革製のジャンパー及び一部炭化せる頭蓋骨や急救手当方法を記載した紙片の燃え残り等が同時に発見された事から判断して恐らく昭和20年の大空襲にて死亡した人々の遺体ではなからうかと推定される。

32, “歯槽膿漏の研究”(現在迄の研究の総括)

(口腔外科) 古谷 弘

歯槽膿漏と代謝機能の研究の一環として, 我々は本症患者の血糖値及び, 尿中, 血液中, に含まれる Aceto_n 及び, 局所歯齦組織に含まれる総 Vitamin C 量の変動によつて観察し, 併せて歯槽膿漏の状態を観察したの